

令和7年度 墨江丘中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

| 学年 実施月日 | | 生徒数 (人) | 平均正答率(%) | | 平均無解答率(%) | |
|------------|-----|------------|----------|------|-----------|------|
| | | | 国語 | 数学 | 国語 | 数学 |
| 3 年 | 学校 | 149 | 54 | 49 | 3.9 | 7.0 |
| | 大阪市 | — | 52 | 46 | 6.8 | 11.2 |
| 4月17日 | 全国 | — | 54.3 | 48.3 | 6.7 | 10.6 |

| | 平均IRTスコア |
|-----|----------|
| | 理科 |
| 学校 | 494 |
| 大阪市 | 489 |
| 全国 | 503 |

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

| 学年 実施月日 | | 生徒数 (人) | 平均点(点) | | | | | 平均無解答率(%) | | | | |
|------------|-----|------------|--------|------|------|------|------|-----------|-----|------|------|-----|
| | | | 国語 | 社会 | 数学 | 理科※ | 英語 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科※ | 英語 |
| 3 年 | 学校 | 158 | 65.4 | 49.0 | 54.8 | 47.4 | 56.5 | 5.2 | 5.0 | 8.9 | 8.0 | 5.6 |
| | 大阪市 | — | 64.8 | 51.5 | 54.3 | 46.5 | 54.4 | 6.1 | 5.8 | 11.1 | 9.4 | 6.5 |
| 9月2日 | 大阪府 | — | 64.2 | 51.2 | 53.9 | 46.0 | 53.2 | 6.8 | 6.5 | 12.1 | 11.0 | 7.4 |

※ 3年生の理科はB問題を選択

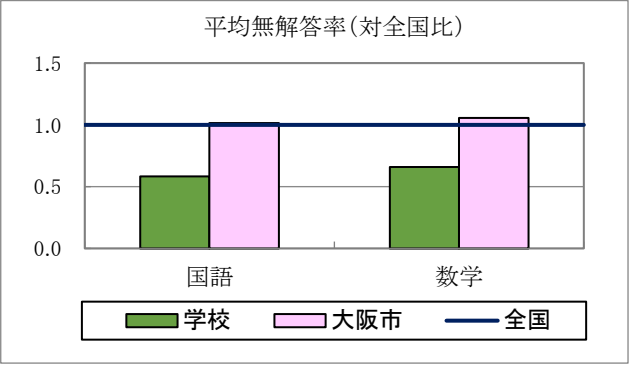
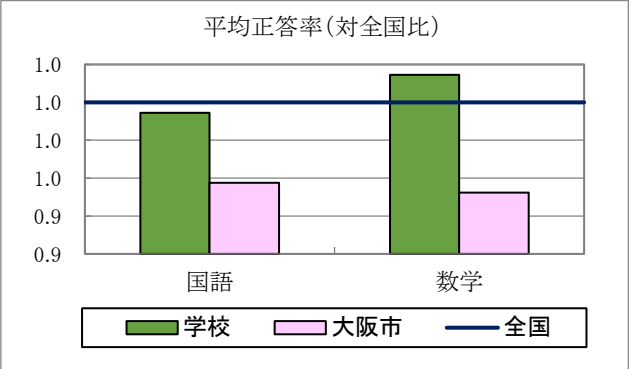
令和7年度 墨江丘中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

| | 平均正答率(%) | |
|-----|----------|------|
| | 国語 | 数学 |
| 学校 | 54 | 49 |
| 大阪市 | 52 | 46 |
| 全国 | 54.3 | 48.3 |

| | 平均無解答率(%) | |
|-----|-----------|------|
| | 国語 | 数学 |
| 学校 | 3.9 | 7.0 |
| 大阪市 | 6.8 | 11.2 |
| 全国 | 6.7 | 10.6 |

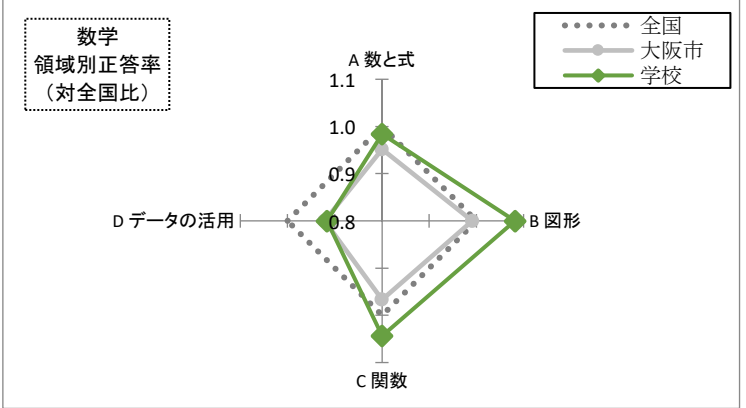
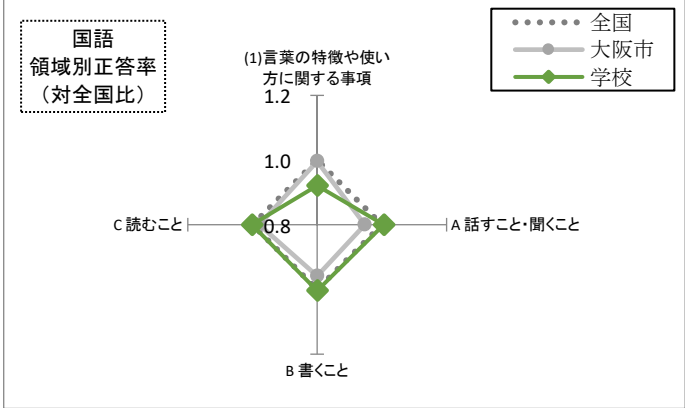
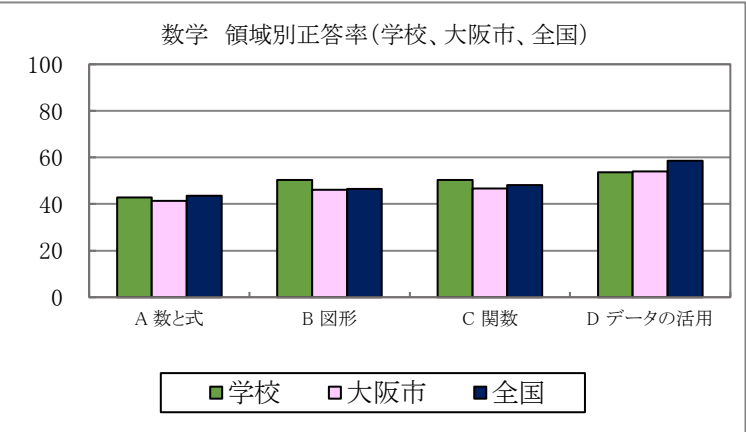
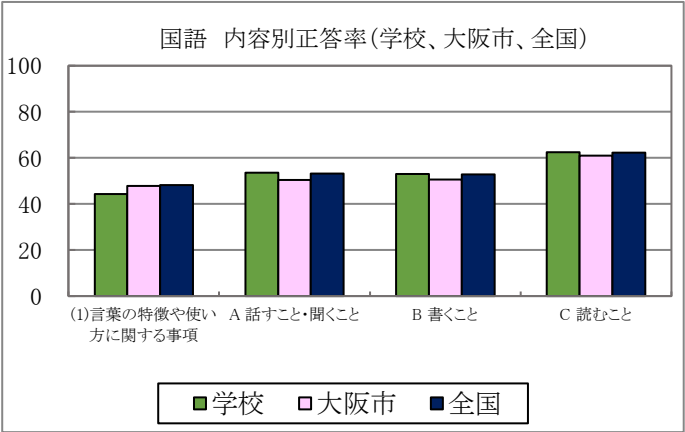


【 国 語 】

| 学習指導要領の内容 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|------------------------|------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| (1)言葉の特徴や使い 方に関する事項 | 2 | 44.3 | 47.9 | 48.1 |
| (2)情報の扱い方 に関する事項 | 0 | | | |
| (3)我が国の言語文化 に関する事項 | 0 | | | |
| A 話すこと・聞くこと | 4 | 53.5 | 50.4 | 53.2 |
| B 書くこと | 5 | 53.0 | 50.6 | 52.8 |
| C 読むこと | 3 | 62.4 | 61.0 | 62.3 |

【 数 学 】

| 学習指導要領の 領域 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|---------------|------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| A 数と式 | 5 | 42.8 | 41.4 | 43.5 |
| B 図形 | 4 | 50.3 | 46.1 | 46.5 |
| C 関数 | 3 | 50.3 | 46.6 | 48.2 |
| D データの活用 | 3 | 53.7 | 54.0 | 58.6 |

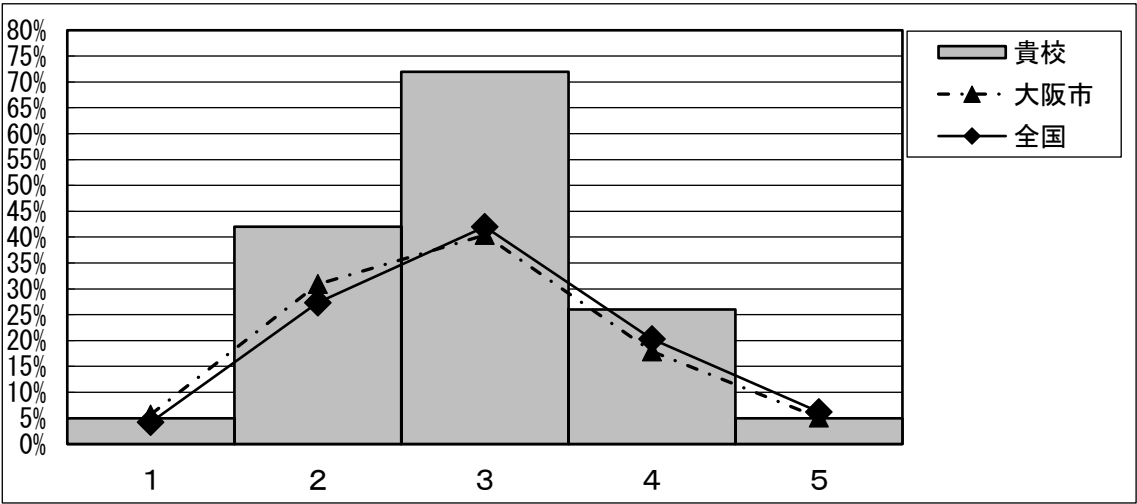
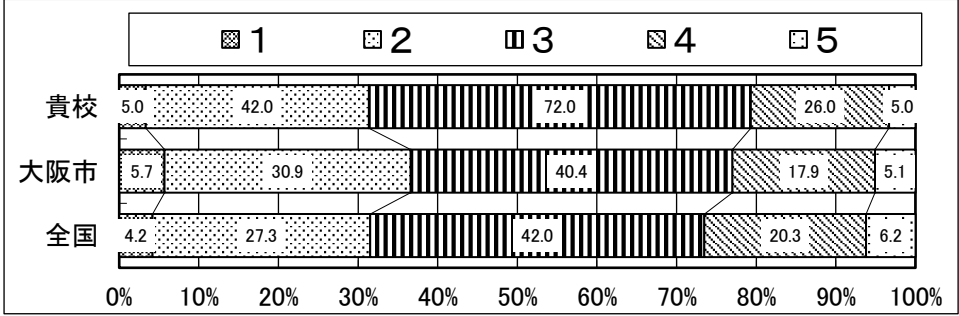


令和7年度 墨江丘中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

| | |
|-----|----------|
| | 平均IRTスコア |
| 学校 | 494 |
| 大阪市 | 489 |
| 全国 | 503 |



令和7年度 墨江丘中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

全体として、平均点は全国と同程度であり、無回答率は全国に比べ良い結果であった。

＜国語＞ 「知識・技能」の領域では全国平均を3.8点下回ったが、「思考・判断・表現」の領域では全国平均を0.2点上回った。全体として、大阪府平均を2.0点上回り、全国平均を0.3点下回る結果となった。

＜数学＞ 「知識・技能」の領域では全国平均を2.6点下回ったが、「思考・判断・表現」の領域では全国平均を4.5点上回った。全体として、大阪府平均を2.0点上回り、全国平均を0.7点上回る結果となった。

＜理科＞ 平均と比較してIRTバンドが1や5の生徒数が少なく、3の生徒数が多くなっていた。

○チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞ 社会以外の全ての教科において、大阪市の平均点を上回った。また、全ての教科で無回答率を下回った。

＜課題＞ 社会の平均点は大阪市の平均に比べて2.5点下回った。

【今後に向けて】

思考力を磨く教育については一定の成果が出ているので、同時に基礎知識を身に付けさせる取り組みを行っていく。